

ビバ、取食ト云者ヲバ追テ不入シテ、大饗ノ下ヲバ其殿ノ侍共ナシ食ケル、ソレニ其殿ニ年來ニ成テ所得タル五位侍有ケリ、其大饗ノ下侍共ノ食ケル中ニ、此五位其座ニテ薯蕷粥ヲ飲テ舌打ヲシテ、哀レ何カデ薯蕷粥ニ飽カント云ケレバ、利仁此ヲ聞テ、大夫殿未ダ薯蕷粥ニ飽セ不給カト云ヘバ、五位未ダ不飽侍ト答フ、利仁イデ飲飽セ奉ラバヤト云ヘバ、五位何ニ喜ウ侍ント云テ止ヌ、○下略

〔台記〕仁平二年正月廿六日壬戌、今日於東三條再行大饗、○中此間權大納言宗能以下來會在弁少納言座、余問戸部生年七十六曰、初會大饗儀是何年哉、答曰、永保元年、故大宮右大臣於花山院被行大饗、愚翁始見之、時年五歲、自彼年至今年七十二年、聞者歎其壽考、

臨時客院宮臨時客辟入

臨時客ハ、毎年正月二日ニ、攝政、關白、及ビ大臣ノ家ニ於テ、親王公卿以下ヲ饗應スルモノニシテ、其名稱ノ由テ起ル所ハ、蓋シ請客ニ及バズシテ來集スル客ヲ、臨時ニ饗スルヲ云フナリ、其儀式略ボ大饗ニ同ジト雖モ、机臺盤ヲ用キズシテ、折敷高坏ヲ用キル、其庇ニ於テ之ヲ行フコトハ、新任大饗ト同ジ、新任大饗ノ事ハ、政治部ニ在リ、

院、女院、皇太后宮、皇后宮、中宮、東宮、齋院等ニ在リテモ亦此饗アリ、而シテ其中宮并ニ東宮ノ饗ハ、二宮大饗篇ニ併載シタレバ、參看スベシ、

〔年中行事歌合〕四番左持臨時客

正月二日

臨時の客とは、攝政關白の家に、春の初、大臣以下の上達部を招て、あそび侍る事の有也、さだまれる公務にてもあらねば、臨時の客と申也、